

夢をあきらめずに、人生を楽しむことが大切

高井まどか (東京大学大学院工学系研究科バイオエンジニアリング専攻 教授)

仕事の内容とやりがいについて

学部卒業後、企業に勤務し半導体実装デバイスの技術開発、その後大学院に戻り磁気ヘッド材料の開発、博士課程卒業後はポスドクとして薄膜太陽電池用アモルファスシリコンの研究、そして現職の東大では、医療デバイス用バイオマテリアルの研究をしています。研究分野を大きく変えたことから、戸惑っていた時期がありました。が、学生時代から一貫して界面制御による機能制御をテーマとした研究に携わっていることに気づきました。そして今、医療デバイスの機能発現の重要な因子である界面の水に興味をひかれています。未知なるものへの探究心、それが私の仕事のやりがいになっています。

私の進路決定のきっかけ

夢があって職業を迷いなく決めることができる人いるかと思いますが、学部卒業時は特にこだわりがなく理系の職業という曖昧な思いから企業の技術職に就きました。企業での仕事は、世の中に役立つ物造りに直結していたことから大変面白く、生涯を通して仕事を続けていきたいという意思を私にもたせてくれました。それからの職業選択においてはかなり悩みましたが、自然科学、人が好きだったことから、好きなことを職業としていけば、仕事を長く続けられると思い、研究を通じて人材育成教育ができる大学の教員を目指すことにしました。今では迷いなく、今の職業を楽しんでいます。

仕事と生活のバランスについて

研究や学生指導をしていると、つい時間を忘れてしまい終電ぎりぎりになってしまうこともあります。平日は仕事を中心の生活を送っていますが、休日はパソコンの電源を入れず、好きな映画を見たり推理小説を読んだり料理をすることで仕事を忘れてリラックスすることになっています。そして私の仕事では、研究成果を国内や国外で発表する機会があります。異文化に触れることの好きな私にとっては、このような旅のひと時が仕事の励みになっています。好きなことを仕事に取り入れることができるので、楽しみながら仕事をしていることがバランスを保つには大切かと思っています。

進路選択についてのアドバイス

進路選択において、私の経験からアドバイスできるとしたら、夢をもつこと、好きなことを見つけることです。意外と難しいことなのだと思いますが、私の幼少期の夢は、病気がちだったことから、医学関係の道に進むことでした。医者や薬剤師といった医療と直結している職業は結果的に選ばず、回り道をしながら現在の教員という職業で医療に関連する仕事ができている。違う形でも夢をあきらめずにいたことで納得のいく選択ができたのでは、と思っています。

＜高井まどか(たかいまどか) プロフィール＞

静岡県立富士高等学校卒業後、早稲田大学理工学部応用化学科に入学。学部で卒業し(株)東芝、半導体事業部に勤務。退職して早稲田大学大学院理工学研究科で博士(工学)を取得。科学技術振興事業団、特別研究員として旧工業技術院、電子技術総合研究所に勤務。その後、東京大学大学院工学系研究科、マテリアル工学専攻、助手、講師、准教授を経て、現在バイオエンジニアリング専攻教授。

スイスで開催された国際会議に出席し、空いた時間を利用して、知り合いの参加者と山登りを楽しんだときマッターホルンを背景に撮った写真。前列中央が筆者。

